

# 西部保健所（日田玖珠地域）の感染症情報

2024 第19週（5月6日～5月12日）

## \*季節性インフルエンザの感染状況

定点当たり報告数は、県内で**0.38**（前週0.79）、西部管内で**1.0**（前週0.60）となっています。

県全体で定点あたり1.0を切り、流行基準値を下回っていますが、各個人での予防が大切です。外出して帰宅した際には手洗いうがい等の予防を心がけましょう。

### 【予防】

- ・流水・石鹸による手洗い、アルコール製剤による手指消毒を心がけましょう。
- ・十分な休養とバランスのとれた食事を心がけましょう。
- ・室内では加湿器などを使って適切な湿度（50～60%）を保つことも効果があります。

### 【症状のある人は】

- ・インフルエンザを疑う症状（1～3日ほどの潜伏期の後に発熱・頭痛・全身倦怠感・筋肉痛・関節痛など）が見られ、具合が悪い場合は、早目に医療機関を受診しましょう。
- ・咳やくしゃみ等の症状がある時は、家族や周りへうつさないように、「咳エチケット」を徹底しましょう。

## \*COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の感染状況

定点当たり報告数は県内**1.64**（前週1.52）、西部管内で**2.80**（前週3.60）となっています。

県全体では感染者が増えています。各個人で感染予防を心がけ、体調を整えるようにしましょう。

また、陽性者は行動制限がなくなりましたが、**発症後5日間かつ症状軽快後24時間は外出を控えることが推奨**されています。

**コロナ発熱・受診相談ダイヤルは令和6年3月31日で終了しました**

※詳しい情報は、大分県HPにある新型コロナウイルスに関するお知らせをご覧ください。

<https://www.pref.oita.jp/site/covid19-oita/>

## \*つつが虫病にご注意ください

つつが虫病は、草むらや草木のよく茂った場所でつつが虫（ダニの一種）に刺されておこる病気です。衣類の隙間から入り込んで、内股、脇の下など皮膚の柔らかい部分を好んで刺します。

### 【症状】

- ・全身倦怠感、食欲不振、頭痛、悪寒、発熱など

### 【症状がある場合】

- ・1～2週間後に、風邪の様な発熱、赤い発疹、リンパ節の腫脹などの症状が現れた場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

※この場合、山林、草地、川原に立ち入ったことを医師に話すことが必要です。

### 【予防方法】

- (1) 山林や畑に立ち入る場合は素肌の露出を避けるため、長そで、長ズボン、長靴、手袋などを着用しましょう。
- (2) 肌のでる部分には、人用の防虫スプレーを噴霧しましょう。
- (3) 作業終了帰宅後は、なるべく早めに風呂に入り、身体をよく洗い、皮膚に刺し口（トゲを刺した感じの箇所）がないか点検した上で、必ず着替えをするようにしましょう。



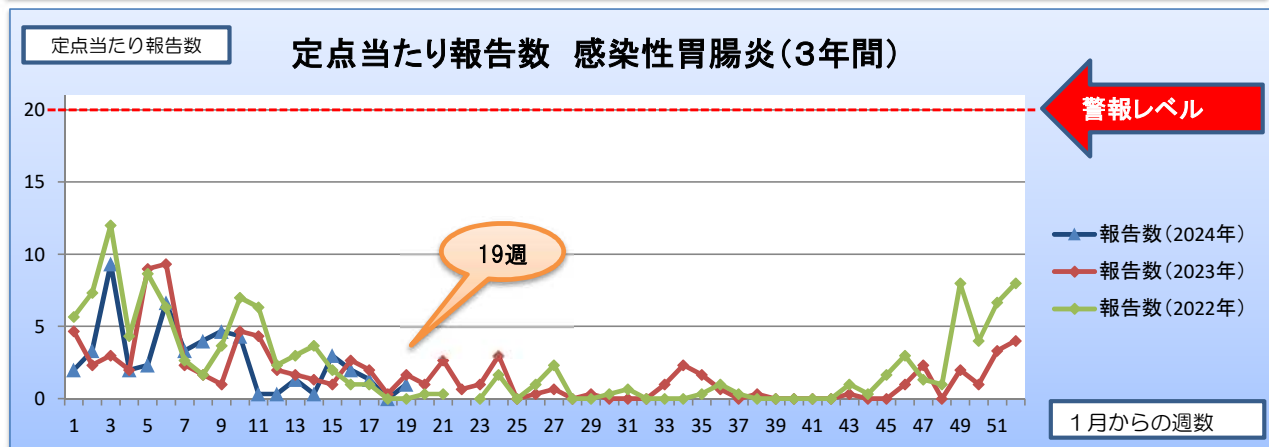
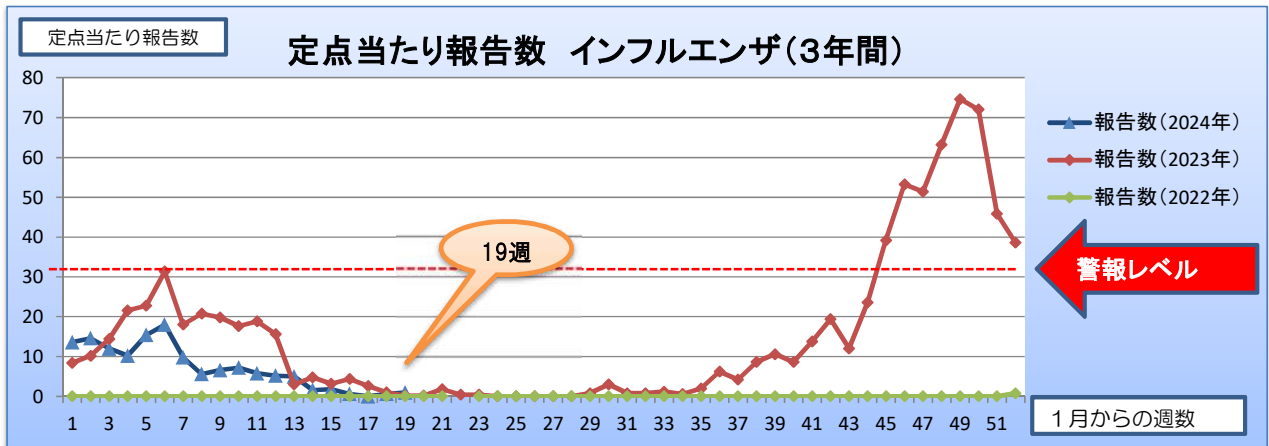
## 定点報告の結果

	インフルエンザ			COVID-19	感染症 RSウイルス	咽頭結膜熱 (プール熱)	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘 (水ぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑 (リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	肺炎 マイコプラズマ	麻疹(全数)	風しん(全数)	警報 レベル	注意報 レベル	
	A型	B型	不明																	
0歳					0.3		0.3													
1～3歳								0.3		0.7		1.0								
4～6歳	0.2	0.2					0.3													
7～9歳	0.4							0.7		0.3										
10～14歳					0.8															
15～19歳					0.2															
20歳以上	0.2				1.8		0.7													
計	0.8	0.2			2.8	0.3	1.3	1.0		1.0		1.0								
70歳以上 (再掲)	-	-	-																	
前週	0.6	-			3.6		2.0		0.7	2.7		0.3	0.3							
		0.6																		

※西部保健所管内の指定された医療機関から報告された患者数を、1医療機関(定点)あたりに換算して計上しています。

※平成27年第14週から定点数が増えたため、以前のデータと比較の際はご注意ください。

※端数処理のため、合計と年齢ごとの数値は一致しないことがあります。



#### 警報・注意報 レベルの基準値

疾患名	警報レベル		注意報レベル 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
感染性胃腸炎	20	12	

なお、基準値はすべて定点当たりの報告数です。また注意報の「空白」は対象としないことを意味します。

## 感染リスクが高まる「5つの場面」

### 場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に数居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



### 場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



### 場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中でも注意が必要。



### 場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



### 場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の流れや環境の変化により、感染リスクが高まる可能性がある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

